

7月園だより

令和5. 6. 21 No.1
かきの木幼稚園
園長 川井 直子

えんちょうのふでばこ

「少子化対策」の行くえ

現内閣の「少子化対策」は「経済成長政策」なのか「福祉政策」なのか焦点が掴み難い。その政策によって、社会が豊かに変わって行くとは感じとれない。

これまでに確立していた社会の制度にいたずらに国が入入しているだけだ。社会の資本であるべき教育は本来自由であり、それぞれの組織が夢を持って取り組めるものでなくてはならない。その中で「幼児教育」について言えば私学の辛いとところだが、「幼稚園団体」の結束が弱く、「知識人」の言葉にしか耳を傾けない「国」に異議を申し立てられず、管理、介入を許してしまっている。

「教育」は人間が人間らしく育つためには、自由が最大限許されるべき制度でなければならぬ。(日本の「幼児教育」の評価は世界的に高いことを知る人は少ない)。自由が許容されなければ、社会生活にとって大切な人と人との繋がりが失われてしまう。

改めて、「少子化対策」の下で育って行く子どもの姿を見つめ直さなければならぬ時が来ている。

他国の制度を手本にするだけで、良い物ができる筈がない。改めて自国の誇れるものを認識し、立て直して欲しい。

～保育日誌より～

年長組	6月2日(金) 天候 雨
活動	虫歯予防デー集会
今日は、雨が降り続いていて室内で過ごした。秋ヶ瀬散歩でザリガニを釣れず残念な気持ちが残っていた為、ザリガニ・釣り竿を手作りし、ザリガニ釣りを楽しんだ。模造紙を用意すると「池とか生き物ここに描いてもいい?」「ザリガニ好きな色で塗ってもいい?」ととても楽しんで参加する姿が見られ、ザリガニが釣れた気分になったり、楽しい思い出が残ったら嬉しいなと思った。「虫歯予防デー集会」では、よく話を聞いていたので、今日の給食は苦手な物にも挑戦する子が多かったり、歯みがきもいつも以上に丁寧に行っていて、約束ごとを守っている姿が見られた。今後も続けていけるように声をかけて行きた	